

技術・家庭科 学習指導案



研究主題

生活や技術を工夫し、創造する実践的な態度の育成
－ 個別最適な学びと協同的な学びの中での評価と工夫－

1. 題材名「住まいのはたらきとこちよさ」

(中学校学習指導要領(平成29年告示)技術・家庭編 B 衣食住の生活 (6) アイ～住生活～)

2. 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領の以下の部分に基づいて設定されている。

内容B「衣食住の生活」の以下の指導事項との関連を図って設定している。

(6) 住居の機能と安全な住まい方

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。

(イ) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。

イ 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。

現在、日本では少子高齢化が進展しており、人口減少が続く中で将来的に単身世帯、単身と子からなる世帯の増加が見込まれる。一方、シェアハウス等のこれまでにない居住形態が広がりつつあり、住まいのニーズは多様化している。住居に対して重要だと思えるものについては、日常生活に対する安心感や、災害等への安全性に関する事が挙げられているが、今後の課題として、高齢者や障害者、子育て世帯等の方々安心して暮らせる住まいの確保や、このような世帯を地域で支え合う必要が考えられる。また、ライフステージに応じた多様な居住ニーズへの対応が必要であることが課題に挙げられる。

中学生の時期は、家族とともに生活していることが多い。そのことが当たり前となっているなか、中学生自身が住まいの基本的な機能や住空間の整え方を考える機会は無いに等しいことが考えられる。そこで、住居の基本的な機能について理解し、活用することで、家族にとって安心して過ごすことができる場所になると気づかせる必要がある。安心して生活するためには、自分や家族の住生活に対する思いや願いを互いに尊重しあいながら住生活を整えていくとともに、幼児の発達や高齢者の特徴も理解することで自分と生活スタイルが異なる場合の住生活を考えることも大切である。

本題材では、自分や家族が安心できる住生活にするために、家庭内事故や自然災害の被害を防いだり、共に生活する家族に配慮したりするなどの住空間の整え方を工夫し、自分の生活に生かそうとす

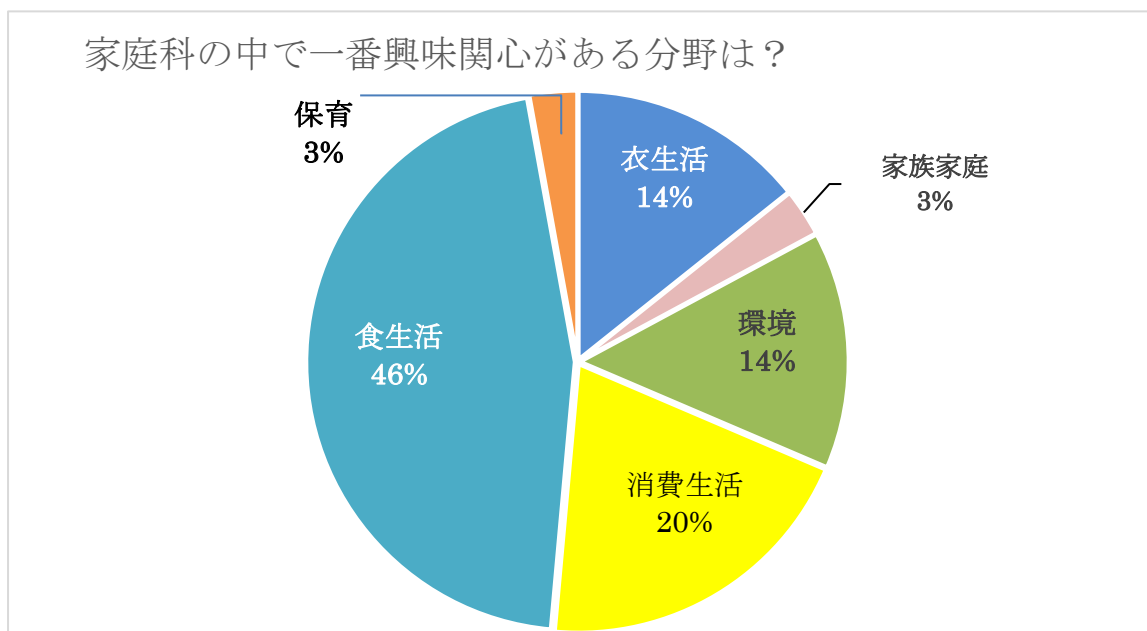
ることをねらいとしている。家族がより快適に過ごすことができるために、自分の状況や生活行為に合わせ、コミュニケーションを図りながら住空間の使い方や家具の配置などを考えさせるとともに、話し合い活動や一人一台端末「Chromebook」を用いた活動を工夫することで効果的に指導したいと考え、この題材を設定した。

(2) 生徒の実態

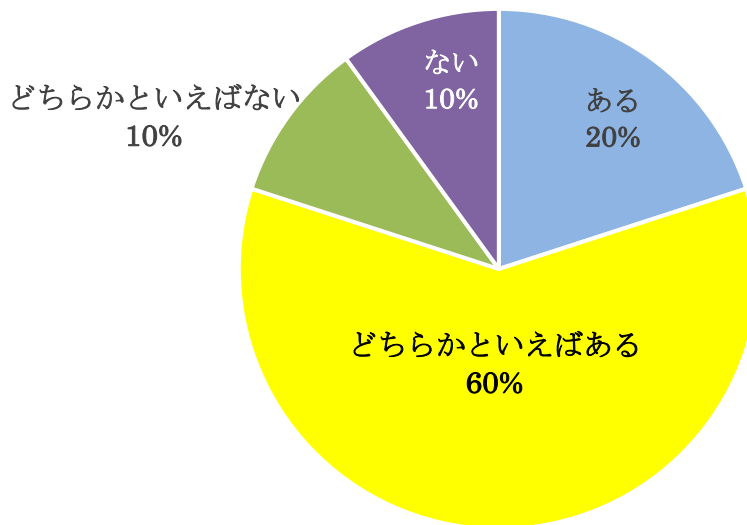
クラス替えをしたばかりのメンバーのため、授業中などは、お互いの様子をうかがっているところがある。発言する生徒にも偏りが見られる。

住生活の学習についてアンケート調査を行った結果、家庭科の分野の中で生徒が強く興味を持っているのは、食生活であり、それに比べると住生活への関心が弱いことがわかる。とはいえ、今後起きる可能性が高いといわれている南海トラフ地震等の災害への意識が高まっていることから、災害や安全という視点で住まいへの興味関心を持っている生徒がいることがアンケートから読み取れる。

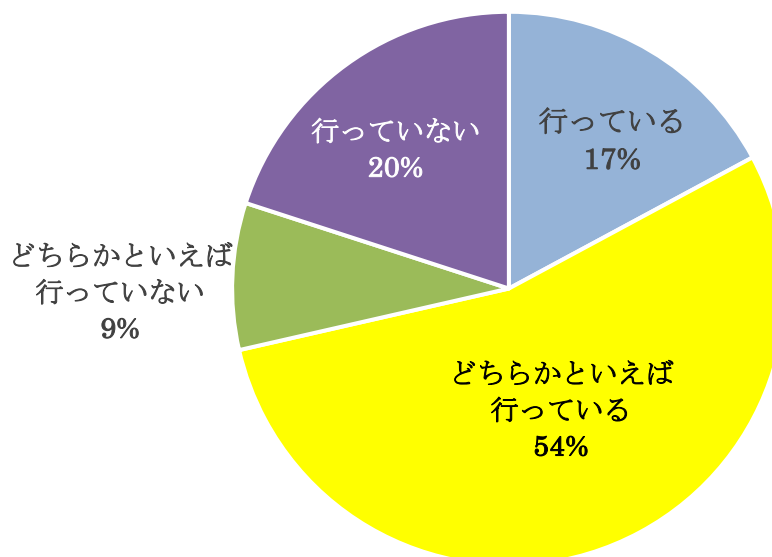
今回の授業では、災害に対しての対策ではなく、日々の家族との生活をより良くしたいという意識や、実際にどのように改善できるかという内容であり、生徒たちが普段意識していない内容だからこそ、話し合い活動を通して、考えを深め、自分の生活に取り入れられるような授業にしていきたい。



住生活に関する学習に関心がありますか。



快適に住まうための工夫を行っていますか



(3) 指導観

生徒の実態から、ICTを活用することで、普段なかなか行うことのない住生活に関する意見交換を行い、家族が安心した住生活を送ることができるような住空間の整え方について考えさせたい。また、より快適な住生活の工夫を様々な視点から考えることを通して、住空間は家族の生活と密接にかかわっていることを理解させたい。様々な家族、住まいのかたちがある中で、家族が安心して生活するために、自分自身が家族の一員として住居の基本的な機能や安全について考えていく必要がある

と気付かせたい。指導に当たっては、プリントで自分の考えをまとめたり必要な情報を手元に残したりすると同時に、ICTで視覚的資料を活用することで住まいに関するより具体的なイメージを持たせたい。プリントとICTを両立させることで、視覚的な情報による理解の向上と、学習内容の振り返りが可能となり基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図ることができると思う。その手立てとして、住居の間取りを用意し、住居の基本的な機能を満たすための空間について理解することができるようにする。住空間を整えることについて、家庭や生活の中から住まい方の課題を見つけ、ICTを用いて情報収集をし、具体的に快適な住まい方について考えられるようにしていく。本時では、共に生活する家族によって住まい方が異なることを理解し、家族が心地よい生活をするために工夫することは何かを考え、Chromebookを使用し班で意見交換をおこなう。班で意見交換を行うことによって、課題に対する自分の考えを再確認するとともに、自分や家族の快適な住まい方についてより深く考えることができる。さらに、次時では家庭内事故や自然災害への備えについて、ICTで調べたり、話し合い活動をしたりして理解させる。このような学習を通して、住空間を整え、家族がより快適に生活することができるために自分ができることは何かを考え、生活に生かそうとする力を身につけさせたい。

3. 題材の目標

- (1) 家族の生活と住空間との関わりや住居の基本的な機能について理解し、安全を考えた住空間を整える力を養う。(知識及び技能)
- (2) 家族の安全を考えた住生活の課題を見出し、解決策を考えて考察するなどして改題を解決する力を身に付けるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
- (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて住生活における課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したり、生活を工夫し実践できるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

4. 題材の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。 ・家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。 	家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

5. 指導計画（7時間扱い）

- (1) 住まいのはたらきと空間・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
- (2) 持続可能な住生活を目指して・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (3) 家庭内事故への備え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (4) 家族に合わせた住生活・・・・・・・・本時（2／2時間） 2時間
- (5) 災害への備え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

時間	学習項目	主な学習活動・ねらい	評価
1 2 3	住まいのはたらきと空間 (持続可能な住生活を目指して)	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの基本的な役割と日本の伝統的な住まいの特徴を理解する。 ・住まいの空間の使い方について理解する。 ・持続可能な住生活について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの基本的な役割と日本の伝統的な住まいの特徴を理解している。(知・技) ・住まいの空間の使い方について理解している。(知・技) ・昔ながらの日本家屋の特徴から、持続可能な社会の実現に向けた工夫を読み取り、理解を深める(知・技)
4	家庭内事故への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内の事故の種類とその原因を知る。 ・幼児や高齢者の安全を考えた住まい方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内の事故の種類とその原因を理解している。(知・技)
5 6	家族に合わせた住生活 (2／2本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族によって、住まい方が異なることを理解した上で、家族が心地よく住むためにどんなことを工夫すればよいのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の生活スタイル等にあった快適な住まいを考えることができる。(思・判・表) ・自分の住まい方を振り返り、よりよい住生活を送ろうとしている(主体的)
7	災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が避難したことを前提に物理的・心理的・心情的な面からより穏やかに暮らせるように考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が避難したことを前提に物理的・心理的・心情的な面からより穏やかに暮らせるよう考えることができる。(思・判・表)

6. 本時の指導（6／7）

- (1) 小題材 「家族に合わせた快適な住まい方を考えよう」
- (2) 本時のねらい 家族が心地よく住むための工夫を考え、自分の生活に生かそうとする力を養う。
(学びに向かう力、人間性等)

(3) 学習活動と評価

時配 (分)	学習活動	指導上の留意点	評価場面・ 評価方法
10	1. 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 家族に合わせた快適な住まい方を考えよう </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を把握している。 ・前回考えた間取りを Chromebook で撮影し、Jamboard に載せる 	
15	2. 前時の課題に対する自分の考え、発表内容を再確認し、課題について班内で共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ※1：発表のポイントを確認する。 ①住まいの空間の使い方の工夫 ②家族の生活スタイルや年齢による配慮 ③その他、家族がより快適に住まうための工夫 ・前時の課題に対する自分の考えを確認する </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の生活班（4人）9班編制 ・Chromebook の Jamboard を活用し、視覚的に伝わりやすくする。 ・事前に全体共有してほしい内容のポイントを伝え、発表がスムーズに行くようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ※2：全体で共有してほしい内容 ※1の発表ポイントの内容が… ①他の班員にはない視点で、よかったと思える意見 ②班員共通して出た意見 </div>	
15	・課題について班内で共有する 3. 班内で特によかった工夫や考え方を発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【生徒の反応】 ・就寝分離を考えた、部屋の割り振りを行う ・年齢（高齢者、幼児）の特徴を考えた使い方 ・家事動線に配慮した使い方 ・収納の量や扉の形状への注目 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体共有 ・電子黒板に発表者の Jamboard を写し、説明と共に伝わりやすくする。（個人の Chromebook も活用） ・※2：全体で共有してほしい内容を踏まえて、誰の、どのような意見が、なぜ良かったのかを各班約1分半で発表させる。 ※発表の時に「〇ページを見てください」という言葉で開始させる。 	
3	4. まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 快適性=人によって異なる </div> 自分の家族にとって何を重視するのか考えることが大切。	<ul style="list-style-type: none"> ・妹や祖母の配置を例に挙げる。 ※和室にする案と洋室にする案、それぞれ違う視点の快適性がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・家族や住まいは様々な形があるからこそ、現状に満足したり、諦めたりするのではなく、快適性を求めて改 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 自分の生活に生かそうとする場面 </div> 評価方法 【プリント】 主体的

7	5. 様々な視点から自分の住まい方を振り返り、問題点や改善点を考える。	<p>善していくことが大切であることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の住まい方を振り返り、よりよい生活を送ろうとしている。 ・問題点が見つからない生徒に対しては、現在快適に生活が出来ている理由を考えさせる。 	
---	-------------------------------------	--	--

(4) 板書計画

作業工程

- 1、写真を撮って Jamboard に投稿
⇒間取り図を撮って、当てはまるファイルのページに載せましょう。
 - 1 / 4 / 7 班は 1 ~ 4 ページ
 - 2 / 5 / 8 班は 5 ~ 8 ページ
 - 3 / 6 / 9 班は 9 ~ 12 ページ
- 2、写真を見ながら、班で意見共有をする (10分)
- 3、全体で共有したい内容をまとめる (5分)
- 4、各班の発表 (各班 1分半ずつ)
- 5、自分の生活を振り返る

<まとめ>

- ・なぜ同じ条件なのに、使い方が異なるのか
⇒重要視している点在人 (家族) によって異なるため、考えの調整が大切
- ・家族の状況の変化によって、住まい方も変化していく

※Classroom に載せておく内容

1 家族に合わせた住まい方を考えよう

1、ポイント

- ・空間の使い方
- ・生活スタイルや年齢など
- ・快適に住むための工夫 など

自分の考えをわかりやすく伝えよう

2、全体で共有してほしい内容

- ①他の班員にはない視点で、よかったと思える意見
- ②班員共通して出た意見 など

1分半以内に発表しましょう

家族構成に合わせた住まい方の工夫

年 組 番 氏名()

《課題》家族に合う住まいの使い方を考えてみよう!教p213

父…夜パソコンを使うための書斎が欲しい

母…休日に近所の人とお茶する場所がほしい

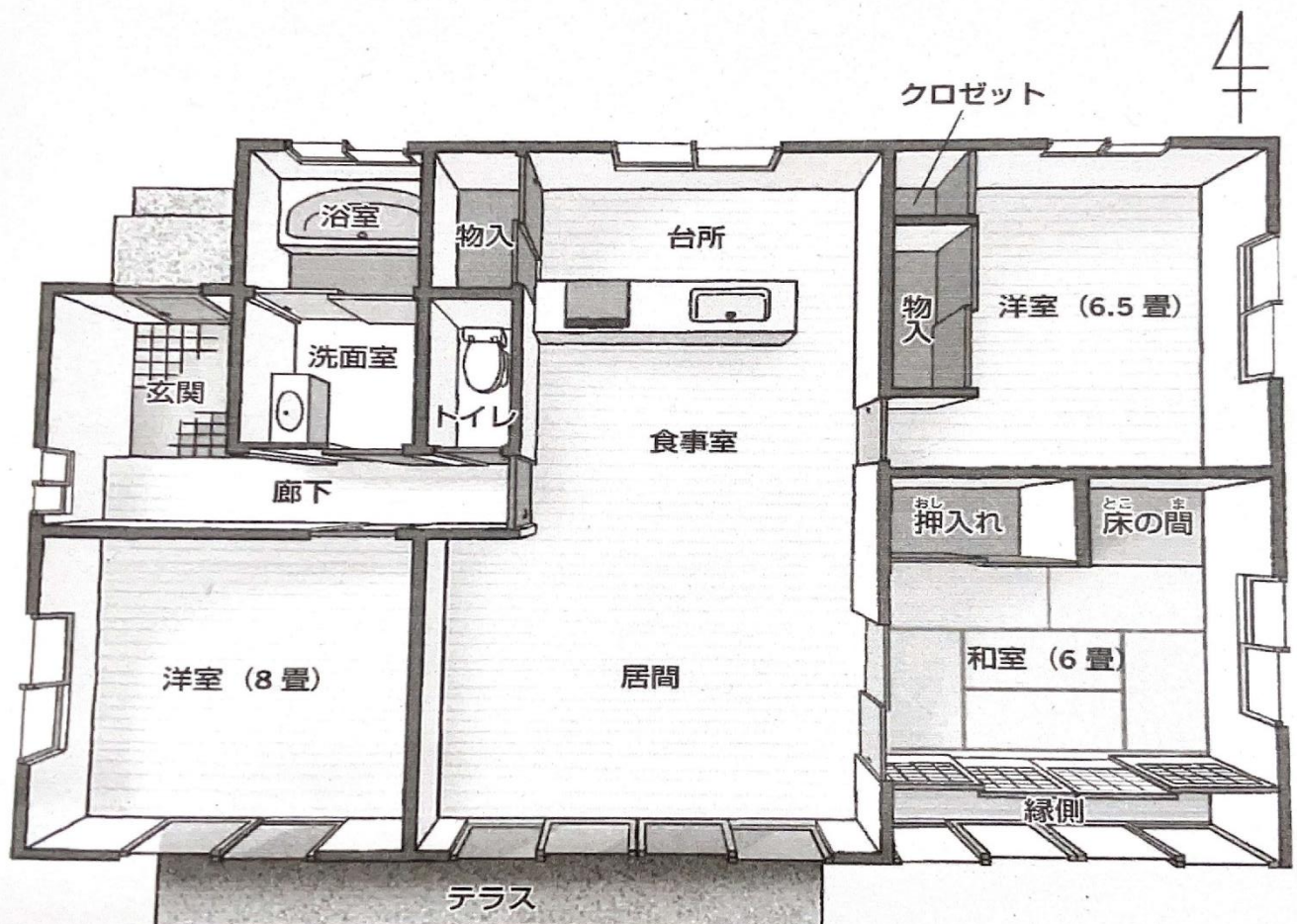
妹…雨の日に友達を大勢呼んでおもちゃで遊びたい

祖母…最近転んで足を骨折したので、ベッドにしたい

Aさん… _____ ←あなたの希望を書いてみよう

★誰がどこをどのように使うことで快適に生活ができるのか、書き込んでみよう。
気をつける点や快適に住まうための工夫なども考えてみよう。

また、なぜそのように考えたのか理由を挙げてみよう



《住まい方を考えた理由》

《補足メモ》～いいな!と思った考え方を記入しよう～

○自分の住まい方を振り返り、課題やさらに快適に住まうための方法を考えよう

《現状・課題》

①

②

《さらに快適にするためには…》

①

②

※課題点が見つからないという人は、自分の住まい方を完璧にしている理由や方法を書いてください。